

# 第68回全国高等学校PTA連合会大会 佐賀大会

テーマ「広めよう 高めよう 慈しむ心」～君たちがつくる希望の明日を～

平成 30 年 8 月 21 日

記念講演

「私が出会った感心な人たち」

佐賀新聞社 専務取締役・論説委員長 富吉賢太郎氏 とみよしけんたろう

敗戦から73年が経ち、新聞を読むことで歴史を読み取っていくことができるとの話初めから、戦後日本の復興のポイントは、まず、1946年昭和21年4月10日開催された、戦後・初の総選挙。復興のための選挙が行われた。当時、衣食住に困る日々。「いわし一匹・米三合」—いわし一匹に米が三合あれば、なんとか家族が一日を過ごしていける、そんな戦後の生活のスタートであった。

それが、1964年昭和39年10月、わずか20年たたずして、「東京オリンピック」の開催にまで、日本が成長した。その成長は、みな「奇跡」とよんだ。その成功のポイントは何か？

① 教育の充実—小学6年間、中学3年間の義務教育。国民が平等に教育を受ける権利を与えた。

2001年12月22日アフガニスタンのカルザイ首相はスピーチで

「国造りを進めるにあたり、国民に教育を！それには日本に学びたい」と話した。

② 官僚が優秀—国を動かす各省庁の官僚が優秀である。

③ 勤勉性—教育を受けた国民が日本の国民性である勤勉、真面目であること。

以上、①・②・③が日本復興、成長成功の三本柱となった。

しかしながら、現在の日本はどうだろうか？危くなっているのが、現在の状況ではないか。

教育、官僚の体たらく、日本人の勤勉性？

仕事上、毎日毎日、新聞のコラムを書いていると、そんな危くなっている今日でも「感心な人たち」を知ることができる。「感心な人」を紹介したい。

① 拉致被害者家族の横田早紀江さん

横田さんは、「漫画家 秋 玲二さん」に励ましてもらったことを心の支えにしている。佐賀新聞のコラムを読み、秋先生が亡くなられたことを知る。そのことを新聞社にはがきを送った。内容は、横田さんは、多忙にかまけて、秋先生の消息をつかみ損ね、恩人の死を後に知ることになったことに非常に後悔をしている。しかし、コラムで秋先生が紹介されたことで知ることができ、感謝しているとのこと。恩人への感謝を死の間際に伝えられなかったことへの後悔、しかし、コラムでの紹介で知りえての感謝をわざわざハガキにして新聞社に送ってきた横田さんの心に感心した。

② ころみ学園元園長の川田昇先生

足利市にある「ころみ学園」は、知的障害者更生施設である。この施設では、ワイン農園を経営して、農園を耕すことから始めた。学校作りを地域の協力を得て、現在、「ころみ学園」の生徒がそれぞれ役目をもって仕事している。2000年沖縄サミット・レセプション時の乾杯酒にソムリエの田崎真也氏が選んだのが、この「ころみ学園」で製作されたワインであった。田崎氏は、「奇跡のワイン」だと大絶賛。川田先生の言葉で、「人間は、働く仕事があると幸せ」。生徒一人一人が独り立ちできるよう、施設・農園での仕事に誇りをもって行っているという。ある人は、来客者のためにドアをあける。ドアを開けるこ

とが自分の仕事だと思い、誇りをもって行っている。

### ③ 児童養護施設暁学園元園長の祖父江文宏氏

虐待されている＝小さい人を救わねば

祖父江先生は、虐待されている子供を「小さい人」とよみ、虐待防止に力を注いだ。

「暴力の臭いがする」社会の闇に隠れている子供たち、身も心も悲しみに詰まっている子供たち。

小3の男子。父の暴力に耐え兼ね、母は家出。給食が唯一の食事。万引き行為が始まる。そんな

少年も自分を傷つけた親を懐かしんでいる。虐待されている子供は、落ち着かない、表情が乏しい。

祖父江先生は、抱き寄せ「この子のため」「この子たちのために」と生涯、児童虐待防止に人生を奉げられた。

「優しさ」－チャップリンの言葉から

- ① 勇気－しちやいけないことをしない勇気
- ② 想像力－思いやり、優しさ
- ③ お金－「サムマネー」…いくらのお金

## ◎「何ために学ぶのか」それは、想像力を身に付けること

### ④ 諏訪中央病院の鎌田實院長先生

鎌田先生の精神は、「人を絶対に裏切らない」

先生は、お子さんのいない夫婦に養子として引き取れた。養母は、病死。タクシー運転手の養父の帰宅が遅いため、友人宅で過ごすことが度々。「夕飯を食べていかない？」と誘ってくれることが心の底から嬉しかった。「人は、想像力の中で優しさが生まれる。」と。いろんな人と出会い、その縁を大切にする。

以上が、富吉先生の講演の中で紹介された「感心な人」たちです。

私は、講演を聞きながら「感心な人って？」とは。「関心」とは違う。

「関心」の意味…ある物事に特に心を引かれ、注意を向けること。

「感心」の意味…りっぱな行為や、すぐれた技量に心を動かされること。心に深く感じること。

興味がわく、興味をもつ「関心」、行いや人柄、その人の持つ技量に心を動かされること、すなわち「感動する心」ということ。

興味がわく、興味をもって、人との出会い、縁を楽しむことはだれでも出来ます。その一歩深く、その人の考えだったり、行動、趣味まで知りえると、自分の知らない世界に出会い、その人に感動する心が芽生えます。

今回の全国大会は、全国から多くのPTA役員の参加されていました。皆さん、それぞれの状況・環境の中から、PTAの使命で参加されていました。富吉氏の講演を伺い、自分を上げること、高めること、それには、自分の周りに幾人もの「感心な人を見つけること」だと私は考えました。それは、初対面の人もいるでしょうが、まず、身の回りの人から、その人の「感心なところ」を見つけようと思いました。今回のテーマにある「慈しむ心」とは、「愛情をもって大切にする」とあります。我が子の「感心なところ」を見つけ、褒めて、二学期、元気に学校生活を送れるよう、愛情をもって、弁当作り頑張ろうと思いました。

河村 恵子